



しもむらいざん
下村為山画 樋口一葉肖像

我が筆とるは まことなり

——もつと知りたい
樋口一葉

企画展
樋口一葉 生誕150年

「たけくらべ」未定稿

題名に「雛鶏」^{ひなどり}とあるが、1895（明治28）年1月、「文学界」第25号に「たけくらべ」として発表された文章との異同は少なく、清書の前段階のものと思われる。吉原遊郭に住む美登利と僧侶の息子信如の淡い恋を中心に思春期の子どもの姿を情緒豊かに描いた作品。



そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

樋口一葉 生誕150年

我が筆とるはまことなり

—もっと知りたい樋口一葉

2022(令和4)年9月17日(土)~11月23日(水・祝)

樋口一葉(1872~1896 本名^{なつ}奈津)は、24年の生涯に「たけくらべ」「ごりえ」など近代文学史に残る名作を著しました。両親は現在の山梨県甲州市塩山の出身で、そのゆかりは「ゆく雲」など山梨を舞台にした小説にも見出すことができます。貧困のなかで高い^{こころ}志を抱いて創作を続け、政治や社会への関心を持ち、日々を懸命に生きた一葉の姿は、格差や性差別などの問題を抱える現代の私たちの共感を呼ぶと同時に新たな示唆^{えいそう}を与えてくれます。

本展では、小説の草稿や和歌の詠草、遺品などを展示し、一葉の生涯と文学の魅力を紹介します。



青海学校小学高等科第四級卒業証書
1883(明治16)年12月23日

当時、高等科(2年間)は第四級から第一級まで半年ごとに進級。一葉が11歳の時、最初の学期第四級で「第一號」(首席)だったが、母・たぎの意見^{いけん}で第三級に進まず退学した。一葉は後にこのことを「死ぬ斗悲しかり」と記している。



木村莊八「たけくらべ絵巻」控画稿

西の市の吉原の様子。西の市の人出は「たけくらべ」第14章冒頭に描かれており、吉原遊郭にまで賑わいをもたらした。「たけくらべ絵巻」は1925(大正14)年から1926年にかけて製作されたが、これは作者が1939(昭和14)年7月に原画を手放す際に控えとして描いたもの。



「詠草」1895(明治28)年9月

「詠草」は詠んだ歌や俳諧を紙に書いたもの。決められた題による歌の後に、詞書に続いて「ふる雨のはれせず物をおもふかな今日もひねもす友なしにして」と彦根に教員として赴任するため東京を去った友人の馬場孤蝶を詠んだ歌が書かれている。

樋口一葉はSNSを使いこなすか？

古川 裕佳

二十一世紀の若い人にとって、樋口一葉といえば、お札にもなった偉人、夭折の天才女性作家というイメージであろう。貧困や病魔と闘いながら、作家としての頂点に達した「奇蹟の十四ヶ月」(和田芳恵)といわれるその時期は、満年齢では二十二歳前後、現代の大学生なら学部四年生くらいになる。たとえば都留文科大文学部文学科の学生なら、二万字以上という目標に向けて卒業論文に取り組んでいる時期と重ねられる。もちろん、十分な学校教育を受けることなく、いわば高校生

の年頃に戸主を引き継ぎ、しかし社会的にも経済的にも自由を手にすることがなかった一葉の二十二歳の精神的成熟と、現代の大学生のそれを並べるのは、どちらにとってもアンフェアだろう。しかし一方で、二十二歳というその身体と感性の柔らかさには、通じるところがあるかもしれない。その接続可能な部分を近づけるにはどんな手があるだろうか。

近年、教育ではアグプテーションによる作品受容の可能性が議論されている。アグプテーションとは直訳的にいうと翻案・改作であるが、現代では、古典的作品・先行作品に別な角度から手を加えたり、異なるメディアに置き換えたりして、味わい直す行為をいう。もちろん古来から、物語を演劇や絵や音楽に再利用することはあり、それが能や歌舞伎やバレエやオペラを支えてきた。現代でも小説をマンガ・アニメ・舞台・映画など別メディアで繰り返し利用することは当たり前になっていく。物語の再利用だけでなく、人気のあるキャラクターの再利用・新解釈ということも行われており、歴史上の有名人や物語の主人公が現代に転生する異世界転生ものや、近代日本の(文豪)キャラクターがバトルを繰り広げるゲームが評判なのは「存じの通りだ。こうしたアグプテーション、二次創作の根本には、まず第一次の作品へ

の十分な理解が必要となる。読解の先、深い理解をふまえたアグプテーションが教育現場で注目されているゆえである。

上記のような問題意識から、ゼミの学生に「樋口一葉現代化プロジェクト」として、一葉が現代に生きていたら、どんな風にしてSNSを利用するだろうか、と投げかけてみた。ゼミでは、一葉はInstagramよりはTwitter派で、TikTokはやらないタイプだろう、一方、「たけくらべ」の美登利は(裏アカ)(=複数のアカウント)を持っていそう、美登利の仲間の「乙田のタイムラインは激しそう」など嬉しい議論があり、それを形にしたものが今回展示されている。

樋口一葉の作品は、「たけくらべ」の美登利変貌の場面や、「雪の日」の後悔の謎など、作中に明示的な答えが書き込まれていない(ように見える)ため、解釈が確定しないものも多い。しかし、分かりやすくない表現、答えの出ない物語を支えているその文体は、謎が多いがゆえに魅力的である。それらが書かれた「奇蹟の十四ヶ月」には『文学界』の仲間の影響があるとされる。半井桃水との閉じられた師弟関係のうちに、文学仲間との開かれたやりとりがあったと言え、サークル活動や演習授業で他者と協働し、切磋琢磨する大学生にも伝わるだろう。信頼できる仲間としての馬場孤蝶宛ての一葉の手紙は、読める相手にはしっかり伝えようとする雄弁なことばであるし、「雪の日」などは現代のSNSにおける「匂わせ」という手法にも読めなくもない。

一葉は手書きの日記や手紙での自己表現に創作と同じくらい打ち込んでいた。いまの若者も、手書きではないがSNSでの自己表現に打ち込んでいる。だからこそ一葉の表現の、気づいて欲しいようできて読み取って欲しいような、いつまでも謎を残すようなそのほかし方に惹かれるのかもしれない。相手に委ねながら、主導権を手放すことなく自己開示しようとする一葉の文章作法は、案外SNS時代にも通用しそうである。

イベントガイド

■ 企画展「樋口一葉 生誕150年 我が筆とるはまことなり —もっと知りたい樋口一葉」関連イベント

◆ 講演会 笛吹川の響きに夢をむすんで

— 樋口一葉「ゆく雲」における時空の構造について —

9月19日(月・祝) 午後1時30分～午後3時

講師: ロバート キャンベル (日本文学研究者・早稲田大学特命教授)

会場: 講堂 定員: 240名

※申込みは締め切りました。

◆ 朗読公演会 語り — 「たけくらべ」「一葉日記」

9月23日(金・祝) 午後1時30分～午後3時

出演: 奥山 眞佐子(女優)

会場: 講堂

定員: 240名

※申込みは締め切りました。

◆ 講演会「育英舎の少女 — 『たけくらべ』へのビューポイント」

10月8日(土) 午後1時30分～午後3時

会場: 講堂 定員: 150名

講師: 高田 知波(駒澤大学名誉教授)

申し込み方法: 8月23日(火)よりお電話でお申し込みください。

定員になり次第、締め切ります。

◆ 対談「一葉と晶子 — 和歌から短歌へ」

10月22日(土) 午後1時30分～午後3時

会場: 講堂 定員: 150名

講師: 三枝 昂之(当館館長)・今野 寿美(歌人)

申し込み方法: 8月23日(火)よりお電話でお申し込みください。

定員になり次第、締め切ります。



三枝 昂之氏



今野 寿美氏

◆ ワークショップ「つまみ細工で水仙コサージュを作ろう」

10月30日(日) 午後1時30分～午後3時30分

講師: 飯島 薫(つまみ細工作家)

会場: 研修室 定員: 20名(小学生以上)

材料費: 500円

申し込み方法: 9月20日(火)よりお電話でお申し込みください。定員になり次第、締め切ります。

■文学創作教室「三枝浩樹短歌講座」

10月29日(土) 午後1時30分～午後3時30分

定員:40名 会場:研修室 受講料:無料

内容:事前にお題を詠んだ短歌を提出していただき、
当日、三枝先生より講評・アドバイスがあります。



三枝 浩樹氏

申込方法

※要申込

*往復はがきでお申し込み下さい。

1枚で1人までご応募いただけます。締切9月30日(金)必着

往信欄裏面に①郵便番号、②住所、③氏名・ふりがな、④電話番号、

返信欄表面に①郵便番号、②住所、③氏名をご記入のうえ当館までお申し込みください。

*申し込み多数の場合は、抽選のうえ結果を1週間前頃までにお送りします。

■ワークショップ「第13回小学生百人一首教室」

11月13日(日) 午後1時30分～午後3時30分

講師:竜王かるた会

会場:研修室 定員:20名(小学生)

申し込み方法:10月4日(火)よりお電話でお申し込みください。

定員になり次第、締め切ります。

常設展

◆第1室～第4室(展示室A)

樋口一葉、芥川龍之介、太宰治、飯田蛇笏など
山梨県出身・ゆかりの作家を紹介します。

◆第5室(展示室B)

山梨出身・ゆかりの文学者104名をジャンルごとに前後期に分けて展示しています。

詩・短歌・俳句・川柳・漢詩(令和4年11月30日まで)



現在の常設展の様子

年間文学講座

講座1「『源氏物語』入門—“若い”光源氏を描く巻々—

講師：池田尚隆（元山梨大学教授）

9月30日(金) 「紅葉賀」「花宴」巻 (申込開始日9/16)

10月21日(金) 「葵」巻 (申込開始日10/7)

11月18日(金) 「賢木」巻 (申込開始日11/4)

*午後2時～午後3時30分 会場：講堂 定員：100名 受講料：無料

*11月18日のみ、午後1時30分～午後3時までとなります。

講座2「ジャンルを超える文学の可能性2」

講師：大村梓（山梨県立大学准教授）

9月24日(土) ミステリーは学校で起こる — 辻村深月、宮部みゆき (申込開始日9/10)

10月15日(土) お転婆な女たち — 樋口一葉「たけくらべ」 (申込開始日10/1)

11月12日(土) 震災について詠む・書く、歌人・詩人たち—俵万智ほか (申込開始日10/29)

*午後2時～午後3時30分 会場：研修室 定員：40名 受講料：無料

*講座1・2ともお電話でお申し込みください。先着順で定員になり次第締切となります。

名作映画鑑賞会

10月10日(月・祝) 「潮騒」

原作 三島由紀夫 監督 森永健次郎 1964年 日活 82分

*午後1時30分～ 会場 講堂 定員150名 無料

*9月25日から電話でお申し込みください。先着順で定員になり次第締切となります。

読書会

10月2日(日) フローベル「ボバリ—夫人」

11月6日(日) 田辺聖子「ジョゼと虎と魚たち」

*いずれも午前10時～正午 会場：会議室

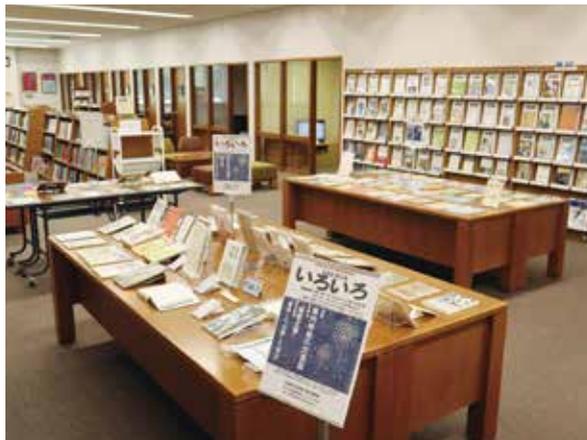
*読書会の年間予定はチラシまたは当館ホームページをご覧ください。

電話かかはがき(氏名・電話番号明記)で協力会事務局までお申し込みください。

新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、各イベントを延期(または中止)する場合があります。また、内容を変更、入場制限をする場合もございます。予めご了承ください。ご来館前に当館ホームページを必ずご確認ください。

閲覧室

閲覧室では、ご来館いただいた方に、より当館の資料に親しんでいただくため、所蔵している図書、雑誌を紹介する展示を定期的に行っています。企画展・特設展と連動した展示のほか、山梨出身・ゆかりの文学者を紹介する展示や季節にちなんだ展示も行っています。展示資料は直接手に取ってご覧いただけます。



入場無料

閲覧室資料紹介

「今に生きる一葉」9月17日(土)～11月23日(水・祝)

企画展「樋口一葉 生誕150年 我が筆とるはまことなり—もっと知りたい樋口一葉」にあわせて、様々な角度から樋口一葉を知ることのできる図書や関連資料を紹介しします。

寄贈資料より

(令和4年2月～7月)

- 中嶋淑人氏より林籟「日本の自然科学者を批評してみる。」原稿など195点、雑誌1点
- 秋元千恵子氏より上田三四二「山色溪声」原稿など特殊資料28点、図書2点、雑誌12点
- 方代会より山崎方代歌碑マップ1点、雑誌1点
- 竹之内靖方氏より伊藤桂一「狢を飼う」原稿1点、図書11点
- 長田十郎氏より映画「狐と狸」パンフレットなど2点、図書6点

次の皆様からも図書・雑誌をご寄贈いただきました。(敬称略)

相澤邦衛	小倉斉	河野真	篠崎美生子	戸澤茂紀	日高昭二
雨宮更聞	風間令子	久保田壽子	杉井美穂	中丸宣明	門間徹子
伊藤一郎	金子美智子	小泉敬	関口安義	中村吾郎	山本育夫
大原祐治	川喜田晶子	小山弘明	芹沢昇	能城真理子	結城文
尾形大	川喜田八潮	今野寿美	全円子	秦恒平	

この他に団体の方々からもご寄贈いただいております。

ご案内

Information

内容が変更になる場合がございます。ご来館前に当館ホームページを必ずご覧ください。

開館時間

展示室	午前9時～午後5時 (入室は午後4時30分まで)
閲覧室	午前9時～午後7時 (土・日・祝は午後6時まで)
ミュージアム ショップ	午前9時30分～午後4時20分
カフェ	午前10時～午後5時 (オーダーストップ午後4時30分)

*営業時間は変更になる場合があります。

休館日(9～3月)

9月	5・12・26日
10月	3・11・17・24・31日
11月	7・14・21・28日

*館内設備工事のため、令和4年12月1日～令和5年4月下旬(予定)まで臨時休館となります。再開の日程は当館ホームページでお知らせします。

*工事による休館中のレファレンスサービス(調査相談)および資料の複写サービスは、電話、FAX、メールにて承ります。詳しくは当館ホームページをご確認ください。

展示室観覧料

	常設展(特設展)		美術館との 共通券	企画展		常設展と企画展の セット券
	個人	団体 (20名以上)		個人	団体	
一般	330円	260円	680円	600円	480円	740円
大学生	220円	170円	340円	400円	320円	490円

*高校生以下の児童・生徒、65歳以上の方(企画展は県内在住者のみ)、障害者手帳をご持参の方、およびその介護をされる方は無料です。
*11月20日(日)県民の日はどなたでも無料です。

*団体料金は20名様以上の団体、県内宿泊者割引適用。

施設利用のお申し込みについて

- 講堂・研修室・茶室のお申込みは、使用しようとする日の6ヶ月前から原則として10日前までです。
- お申込みは開館日の9:00より受付可です。文学館チケット売場まで申請者様の印鑑をお持ちのうえ、お越しください。受付時間は9:00～16:30です。
- いずれも休館日は受付できません。使用上の注意はお申込みの際、ご説明いたします。
- 12月～4月の臨時休館中の「施設利用の受付」は館内にて行います。
ご来館前にお電話でお問い合わせください。

交通のご案内

中央自動車道甲府昭和インターチェンジより

- 料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。

JR中央本線甲府駅より

- 甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より御勅使・竜王駅 経由敷島営業所・大草經由韮崎駅・貢川団地各行ききのバスで約15分「山梨県立美術館」下車。
※甲府駅からのバスの時刻表は(山梨交通HP)よりお調べいただけます。
- タクシーで約15分。



Twitterでタイムリーに
情報をお届けしています。

山梨県立文学館

@yamanashi_art_literature_park

ホームページ



そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-5-35
TEL:055-235-8080 FAX:055-226-9032
https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/